

No. 367【2019年8月2日配信】

横内浄水場の「製氷プール」(担当:鈴木)

こんにちは、囑託員の鈴木です。いよいよ今日からねぶたが始まりますね♪

今回は、涼しく「氷」にまつわるお話です。

さて、以前に「あおり歴史トリビア」No.279(2017年10月20日配信)で、昭和12年(1937)に、青森プール建設期成同盟会が当時の横内村の浄水場近くにあった「製氷プール」を改造して水泳プールを建設したと書きました。この製氷プール、実は明治時代に青森市の水道部が造ったものでした。



横内浄水場周辺
(昭和7年発行『青森市鳥瞰図』より)

青森市の水道は、明治39年(1906)に国の事業認可を受け、同42年12月6日に施設が完成しました。市はこの事業にあたり多額の債務を負い、その返済の一部にあてるために製氷事業を試みたのです。

その頃、氷は飲料用のほか、魚介を輸送するための荷造り用として大きな需用がありました。なかでも「函館氷」という五稜郭の堀から採取される天然氷は、質の良いブランド氷として人気があり、青森市でも高値で販売されていました。

そこで、青森市水道部では、冬場に余ることが予想される濾過後のきれいな水道水を利用して氷を作れば、飲料用の良質な氷ができ、きっと高い値段で売れるだろうと考えました。そして、横内浄水場の北側にコンクリート製の製氷池を造り、明治43年1月から製氷事業を始めたのです。

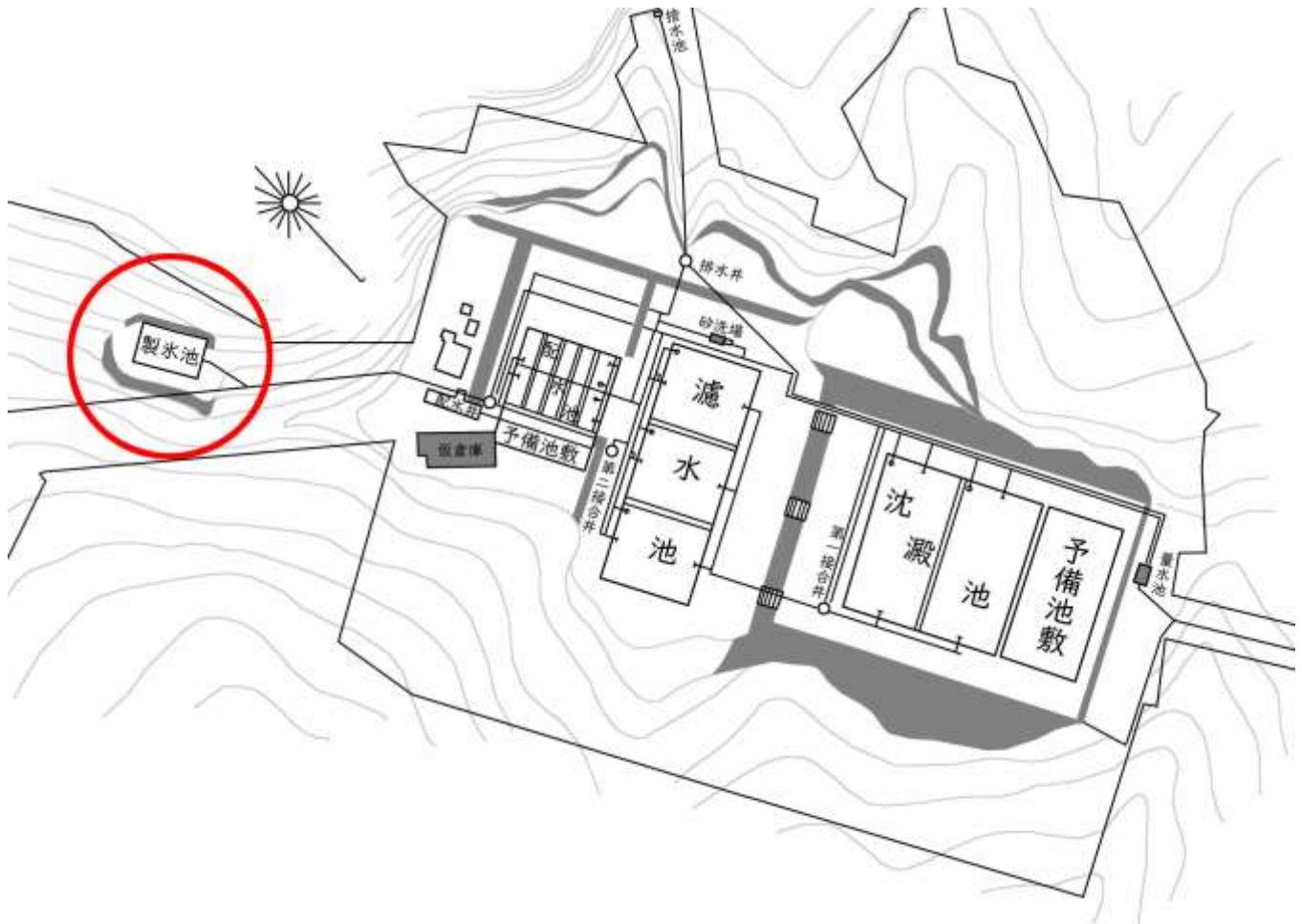
まず、事業1年目。『東奥日報』記事によれば、2月上旬に初めて採取した氷は、契約業者に飲料用にはならないといわれ、荷造り用の安い値段でしか売れませんでした。ただ、技術者は製氷に適さない土地の割には良い氷ができたので、来年度も事業を続けると期待を述べています。

そして、2年目。雨が降ったり気温が上がったりで、なかなか氷が厚くならず、この冬は2度しか採取できませんでした。また、前年は採取後すぐに業者に売却しましたが、この年は夏まで市の貯蔵庫に保管することにしました。しかし、7月の売却時には、溶けて7割ほどに量が減ってしまいました。

その後の様子を伝える記事はみつかりませんでしたが、『青森市水道六十年史』(1969年 青森市水道部発行)によれば製氷事業は3年続いたそうです。しかし、思うような収益が上らないうえ、市周辺でも製氷業を始める者が出てきていたこともあり、この事業は短命に終わりました。

その後、水道部ではこの製氷池を利用してウナギの養殖を始めましたが、これも1年で失敗しています。また、明治45年6月22日付『東奥日報』には浄水場の技手が養蚕を行なっているという記事がありますが、これもその後の記事が見当たらないのでうまくいかなかったのかもしれませんが。

のちに、製氷池は青森市初の淡水プールに改造され、市内の小中学生たちの競泳大会などに利用されましたが、それも2〜3年で使われなくなってしまいました。



製氷池の位置

(「青森市水道浄水場及断面図」〈『青森市水道六十年史』1969年 青森市水道部〉より作図)